

# ゆたかかな労働と 生活の場をめざして

発行. 社会福祉法人ときわ会

〒187-0032 小平市小川町 2-1159 番地

URL <http://www.asayake.or.jp>

あさやけ  
だより  
No. 511

あさやけ作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-4575
あさやけ第二作業所	小平市小川町 2-1159 番地	TEL 042-345-1564
サングリーン	小平市小川町 1-943 番地	TEL 042-345-1585
あさやけ鷹の台作業所	小平市小川町 1-411 番地	TEL 042-346-2167
共同ホームつくしんぼ	小平市小川町 1-944-30 番地	TEL 042-342-7550
共同ホームこげら	小平市上水南町 2-21-17 番地	TEL 042-325-8716
共同ホームサンライズ	小平市小川東町 5-2-11 番地	TEL 042-346-0472
あさやけ喜平橋食堂	小平市上水南町 2-23-21-5	TEL 042-312-0793
地域生活支援センターあさやけ	小平市小川東町 4-2-1 番地	TEL 042-345-1741
共同ホーム一歩	小平市花小金井 7-2-24 番地	TEL 042-349-0305
あさやけ風の作業所	小平市中島町 3-8 番地	TEL 042-349-2366
共同ホームはやぶさ	小平市小川町 1-497-13 番地	TEL 042-313-6269
共同ホームさらさ	小平市小川東町 5-2-12-1 番地	TEL 042-313-2217



毎年の三泊三日の旅行がコロナで出来なくなり、三年ぶりの日帰り旅行に行ってきました。新宿御苑での記念撮影。

## 日帰り旅行

あさやけ作業所

仲間紹介

ひとりひとりが太陽



「○○さん、僕、お仕事がんばって  
まーす！」

朴 大淳さん

あさやけ鷹の台作業所



今年四月より入所をした  
 朴さんです。元気いっぱい  
 で、あさやけ鷹の台作業所  
 の下請け班でダイレクト  
 メールの仕事をしています。  
 入所当所から半年までは、  
 色んな職員に「○○さん、  
 僕、お仕事がんばってまー  
 す！」とアピールしながら、  
 ハイペースで休まずに続け  
 ています。「飛ばしすぎて疲  
 れてしまうのではないか。」と  
 周囲が心配するほどでした。  
 でも、だんだんと慣れてく  
 るうちに、作業中のラジオ  
 の音に耳を傾けて真似をし  
 てみたり、自分でクイズの  
 問題を作って自分で回答し  
 てみたり…おしゃべりも増  
 えてきました。また、昼休  
 みになると、「買い物に行っ  
 てきまーす」と色んな職員に  
 声をかけて、大好きな電車  
 のDVDや、「びつくらぼん」  
 というおもちゃを買いに、  
 意気揚々と出かけていくよ  
 うになりました。(自分で  
 働いたお金で買い物をする  
 事は格別なのかも知れませ  
 ん。)最近では、「買いすぎな  
 いようにします」と注意し  
 ているとの事で、見に行く  
 だけの日もあります。本人  
 に、「あさやけ鷹の台で楽し  
 みにしている事は何ですか」  
 とたずねたら、「土曜開所が  
 楽しみです。塗り絵をした  
 いです。」と元気に答えてい  
 ました。多摩動物園への外  
 出も、一泊二日の旅行も楽  
 しく参加しています。これ  
 からもあさやけ鷹の台の仲  
 間として一緒にがんばって  
 いきましょう。

はじめに藤井さんの話を聞いた時は「まるでドラマのよう  
な話だな」と感じた。

私があさやけ作業所に入職するときに思った「大きいこ  
ろに入るのだな。」あの時の感覚を思い出した。入職する前  
に思ったのは何とも組織として大きいところに入ると思っただけ  
ではなかった。五十年も前からある作業所で、日本で初めて精  
神の作業所を作った、など歴史の大きさを感じたのだった。

入職して七年。日々働いて  
いると毎日が流れ作業のよう  
になりがちで、段々とそれでも良  
いと思うようになる。今回実践  
交流会で「0を探す」という話  
を聞いた時、自分の考えが何も  
していないことと同じなのだ  
と。先人が作ってきた1の  
上にいるのはいつだって楽なのだ。ただその0を探すとい  
うことが何とも難しい話だ。だが反対に私は先人が作ってきた1  
は私にとっては0なのだと思えることもあった。そう  
考えれば、私の身の回りは0だらけなのである。

私は入職したときからこの環境で、それは作り上げてきた  
人たちにとっては1なのかもしれないが、私にとってはそれが  
あることが0の状態なのだ。この0の状態を当たり前として、

藤井克徳さんの話を聞いて

あさやけ作業所  
青木 美菜未

0では難しいことを見つけてどのようにすれば1になるかを考  
えていくしかない。それは1を2にすることにもつながるので  
はないだろうか。こう考えていくことは、自分の中で「ドラマ  
のようだ」と消化しきれなかった藤井さんの話が身に落ちるよ  
うに感じた。先人が作ってきた0というのは偉大で、足りない  
部分なんて日々の中では感じられないような気がするが、それ  
でもふとしたときに自分の力じゃ、今の環境じゃどうしようも  
ないことを感じるときがある。  
 本人や家族の希望をかなえるた  
 めにはまだ足りない部分がある  
 と。それはときわ会だけが作っ  
 ていくべきものではきつと無い  
 はずで、もつともつと大きいと  
 ころを考えることが必要になっ  
 てくると思うのだ。大きいこ  
 ろを変えていくのも個人の力ではどうしようもないこともあ  
 る。束になって福祉全体で考えていくこともきつと必要なのだ。  
 それが運動というものにつながるのだから、と思う。毎日の  
 業務で忙しいこともあるが、ふとしたときに運動の大切さを思  
 い出し、個人ではなく集団の力を信じていくべきだと感じた。

## あさやけ作業所 福井真央

皆さん、ここだけの話ですよ。「あー。実践交流会、長いんだよねー」と当日、始まる直前までぼやいていたのは…私です。しかし、すべての行程を終えると自分の気持ちが整理されたり、すっきりする感覚になって、「あー、おもしろかった。」と思うのだから不思議ですね。

前半の4本のレポートと後半の藤井克徳さんの講演を聴いて、再認識できたのは障害者とは障害のある人が障害なのではなく、この社会で過ごすなかで生じる生きづらさこそが障害なのだとということでした。そして、その障害に対して私たちは問題提起をし、アプローチをし続けることで多くの人々が生きやすい社会につながるきっかけになり得るのではないかとさえ思いました。

こんな大それた発言をしています、私は、生の藤井さんの姿をみただけで背筋がピンとしまう程小心者なので一人ではできる気がしないのです。「赤信号 みんなで渡れば 怖くない(使い方は絶対間違っている)」精神でときわ会のなかまで自分事として運動(ゼロ探し)を続けていけたらいいなと思いました。

## あさやけ風の作業所 市川恵美子

昨年とときわ会に入職した私にとって、今回が2回目の実践交流会でした。

このような場は、一緒に働く職員への支援に対する考え方やその人の熱量等を知る貴重な機会だと思います。支援の向上の為に職員集団の向上が不可欠であり、もっと話せる場があればと感じます。職員同士お互いの持つ力を知り、良い刺激を受けながら支援に活かす、そんなきっかけにしたい実践交流会でした。

後半の藤井さんのお話には、新しい知識と改めて気づかされたことがいろいろと含まれていました。職員に向けたメッセージの中の、「自分と違い条件の人とつながること」では、以前介護保険の利用者の支援に伺っていた時のことを思い出しました。障害分野でずっと働いてきた私は、人生の大先輩のお宅を訪問し、どのように言葉をかけていこうかと、訪問の度に緊張していました。伝え方を思案し、その場の状況を見て動き方を工夫し、その方の生きてこられた年月を思い、学ぶ気持ちを大事にしながらつながっていきました。あの時の体験を今の支援にも活かさなければ、と改めて感じました。日々の忙しさに追われ、見えなくなっていることに気づかされ、ありがたい機会となりました。

## 共同ホーム一歩 菅田由加里

私は2回目の参加で、去年はコロナ禍でも実施され各事業所に他作業所職員が配置され、入職浅い私は一歩利用者とあさやけの担当者職員の名前と顔が一致してホームと作業所のハウレンソウ(報告・連絡・相談)がスムーズに繋がりが助かった記憶がある。

今年は大きなホールで舞台上上がったの最初の発言者はあさやけ塩崎職員であった。

今秋一歩でクラスターが起きた時には日中、夜勤支援と大変協力頂いた。その時の利用者の受け止めの表情は「おかえり〜」と懐かしさと笑顔で互いに距離が無くなっていた。

きっと塩崎さんの考える軸になるものが利用者に伝わっていたのだろう。発言内で「本人視点を大事にしつつその人らしさを発揮できるような労働と生活を追求していく事がより良い支援につながるのではないかと考える」とあり私も常に業務中は一人ひとりの要望に応じていきたいと考えている。解らないがあれば手探りでも想像力で支援を良い方向に向けられるようにしていきたいと思った。その気持ちの共有を充実するのがゆたかな労働と生活に繋がるのかと考える。

## 社会福祉法人ときわ会 第24回実践交流会が開催されました ゆたかな労働と生活の場をめざして

11月26日(土)、小平市福祉会館において、第24回実践交流会が開催されました。久しぶりに職員一同、近距離で集まったの会となりました。あさやけの原点でもある「ゆたかな労働と生活の場をめざして」をテーマに、午前中は4つの事業所から実践報告、午後はあさやけの創成期をよく知る、藤井克徳さんの講演を聞きました。あさやけがなぜこのキーワードを柱にしてきたのか、原点を知る方のお話を聞きながら、日々の支援に重ね合わせて考えることのできた、貴重な時間となりました。



## あさやけ喜平橋食堂 加藤直子

今回のテーマである、「ゆたかな労働と生活の場をめざして」のレポートを書くにあたって、私は「ゆたか」というワードに注目していましたが、4人の方の実践報告や藤井さんのお話を聞いて、「めざして」いくということにも大きな意味があるということに気づきました。今よりもほんのちょっとよりよい方向に進める、進めるための努力をすること。それがめざしていくということなのかなと私は受けとめました。コロナ禍だからこそ、このテーマがすごく心に刺さりました。メンバーにとって、安心して通う場所があること、安心して働く場所があることがいかに幸せなことであるのか。メンバーだけでなく支援者自身もゆたかさを大事にしていけたらなと思いました。あさやけを作ってきた先輩方々の熱い思いや、積み重ねてきたものをこれからも大事にしていけたらなと思っています。

## 共同ホームはやぶさ 山田大介

今回の実践交流会のテーマは「ゆたかな労働と生活の場をめざして」というテーマでしたが、レポート発表にて共感できる意見や新しい意見、考えさせられる意見など様々な意見があり、ゆたかさの考えが職員一人一人違っており、とても勉強になりました。そんな中一番印象に残っている意見が、メンバーがゆたかに生活できるためには支援者のゆたかさも必要であるという意見でした。これは私も働き始めた時から思っていたことです。支援の土台は支援者であると考えています。組体操でも土台がしっかりしていないとすぐに崩れてしまうのと同じように、支援においても崩れてしまうような土台ではゆたかな支援には程遠いのではないかと思います。自分でレポートを書くのも支援について考える良い機会になりますが、他の方の意見を聞くこともとても勉強になり、今回の実践交流会にて再度、支援における大切さを考え、学べたと思います。

## みんなで一緒に暮らしていくことを大切に 共同ホームこげら

昨年4月よりホームの職員が大きく変わりました。現在は職員4名と男性入居者の入浴援助者3名とたすけあいグループひまわりさんの支援を受けて運営しています。当初は入居者それぞれの生活スタイルの違い、コミュニケーションがうまくいかないこともありましたが、そのたび入居者と話し合い、ご本人の要望ができるだけ叶えられるような支援を心がけてきました。それから2年近く経ち、現在はそれぞれの生活支援が実現しつつあります。これまでの支援者は手探りだったところもありましたが、きっと入居者も同じだったと思います。今はコロナ禍で入居者にとってストレスになることもあります。前のような生活に戻りつつあり、ゆっくりと毎日を過ごしていけたらいいなと思っています。



### <現在の入居者の様子>

気になることがあるとすぐに「食事いりません」と訴えていたAさん。新しい職員との関係が築かれていくなかで、最近は毎食しっかり完食しています。

ヘルパーさんと外出する計画を自分で決めることが苦手なBさん。職員と外出先を考え続けるなかで、地図を広げ、「ここに行きたいです!」と決められるようになりました。

洗濯の日にきちんと選択していたCさん。違ったやり方を受け入れるのが苦手な面があり出来なくなりました。経験を積み重ね今は違う方法も受け入れ洗濯をしています。

毎週土・日は朝から実家へ帰って1日を過ごしていたDさん。今はお昼づくりに入る職員と過ごすのを楽しみして、日曜日はホームで過ごしています。

普段はあまりしゃべらないEさん。「自動販売機、のみのもの、買いに行きたいです」「明日は作業所ある?」など職員との会話が増えてきています。

### <新しい職員から>

共同ホームこげらで働き始めてもうじき2年が経ちます。初めて来たときの印象は、とても綺麗なホームで大切に守られてきたんだな~と思いました。食事の準備から掃除を一から詳しく教えていただき、ハブニングもありますが楽しく働いています。こげらで暮らすメンバー5人と仲良くお話できるようになり「加藤さんお願いします!」と言われた時はとてもうれしくやる気が出ます。

加藤さゆり

## 3年ぶり旅行は楽しかった あさやけ作業所

「今日は旅行に連れて行ってくださりありがとうございます。三年間、家族でもどこにも行けなかったから、楽しい一日になったと思う。」お迎えに来たご家族が、このようにお話しをしてくれました。

三年ぶりに旅行は、日程を三回に分け日帰りで行いました。行先は東京おもちゃ美術館・新宿御苑コースと、サンリオピューロランドの2コースから選んでもらいました。日帰りなので、出発したらあつという間の一日。ですが、開催までの道のりはたくさんの紆余曲折がありました。旅行前日にコロナの感染が分かり急遽延期にもなりました。大変だったことを挙げればキリがありません。それでも、参加した仲間たちはたくさんの笑顔を見せてくれたので開催できて本当に良かったです。

### ■参加した仲間たちにインタビューをしました。

□泉恵子さん

職 員:「日帰り旅行は何をしたのですか?」

泉さん:「花。公園にいった。ゲームやった!」

職 員:「え!ゲームやったんですか?誰とやったのですか?」

泉さん:「中川さん!」

職 員:「どういうゲームやったのですか?」

泉さん:「棒をひっぱる。」

久しぶりの外出で、おもちゃ美術館のサッカーゲームを体験した泉さん。そのあとは新宿御苑ですてきなランチと散策を楽しみました。また行きましょね。



□中村友幸さん

職 員:「日帰りはどうでしたか?」

中村さん:「グー!!良かった!おもちゃはボールを転がして・・・ガハハハハ!」

職 員:「新宿御苑はどうでしたか?」

中村さん:「グー!!お刺身と炊き込みご飯が美味しかった!あとシチューも!」

仲間とゲームで真剣勝負。普段は見せない表情を見せてくれました。豪華なランチにご満悦でした。



□鈴木雪那さん

職 員:「あさやけでは初めての旅行でしたわ?」

鈴木さん:「楽しかったー!ショー見たんだ!」

職 員:「どんなショーでしたか?」

鈴木さん:「ウサギのやつと、キティーちゃんが鬼退治するやる!」

職 員:「ご飯すごかったって言ってましたよね?」

鈴木さん:「ローストビーフ井!!上にぐでたまが乗ってるんだよ!旅行また行きたい!」

あさやけで初めて旅行に参加した鈴木さん。興奮気味にスマホで写真を見せながら旅行の話聞かせてくれました。今度はみんなで一緒に行けると良いですね。



## あさやけ喜平橋食堂の年末年始の営業案内

### ■年末年始のお弁当・カフェ営業について

年内は12月27日（火）まで。年明けは1月6日（金）からです。

### ■現在のカフェの営業時間は、

・月火木 11：30～15：00

・水 金 10：00～15：00（お弁当の店頭お渡しは11：30～）

### ■お弁当はご予約も承ります。

■自家製ブルーベリージャム（700円）の今年度分は店頭分で販売終了となります



■感染防止のため、新聞・雑誌等の回収品は玄関前にお出してください。ご協力をよろしくお願ひします。回収時間は午前9時から12時30分になります。

### 廃品回収のお知らせ

11月の廃品回収の回収量は8,520kgでした。内訳は新聞5,700kg、雑誌・ダンボール2,820kgです。収益は小平市の資源回収補助金も含めて116,600円でした

**次回は1月21日（土）が回収日です。**

雨天の場合は中止とさせていただきます。